

班通信

No. 4



ススキ

令和4年10月10日

さいたま市
岩槻班退職校長会
事務局:090-5826-3329(岡野)

第2回企画研修会にご参加下さい!! ～「来年の干支うさぎの木目込み人形を作ろう」～

2回にわたった人形に関わる研修会の仕上げに、うさぎの木目込み人形を制作し、正月の自宅に飾ろうという内容を計画しました。



現在参加者募集中(締め切りは11月9日)です。研修会は12月4・11日に、市民会館いわつきで行います。是非多くの会員・ご家族の参加をお待ちしております。

木目込み人形豆知識(岩槻区・新井人形のHP等から)

木目込み人形は木製の人形の一つで、そのルーツは8代将軍徳川吉宗の元文年間の1740年頃、京都上賀茂神社に仕えた高橋忠重が柳で神事に使う奉納箱を作り、その残片で作った木彫りの人形に刻み目をつけ、それに神官の衣装の端切れを押し込んで(木目込んで)作ったのが始まりといわれている。こうした人形は「賀茂人形」「賀茂川人形」「柳人形」などと呼ばれ、大きさは3～10cmと小さいものであった。

その後、江戸の発展とともに京都から江戸に移り住んだ人形師により、江戸風に洗練され「江戸木目込み人形」として現在に至っている。江戸木目込み人形は京都のものに比べてやせ形で目鼻が小さくくっきりしているのが特徴である。

明治後期になると木彫りから桐塑(桐の粉を糊で練った粘土状のもの)を型抜きして胴体を作る製法が用いられるようになった。現在岩槻で盛んに作られているのも型抜きした桐塑の胴体(ボディ)を丁寧に修正した後、彫った溝に金襴やちりめんの布地を差し込み、しっかり貼り付けながら着ているように仕上げている。これによって大量生産や形の多様化が可能になり、様々な種類の木目込み人形が作られるようになった。

対外連携・支援部会からの中間報告 学校・地域と連携する退職校長会を目指して

本会は、「まちかど雛めぐり」への協力を継続しています。また、多くの会員が学校運営協議会、土曜チャレンジスクールや公民館事業などに携わっています。

今年度は、本会として更に学校や生涯学習機関などとの連携を深め、協力体制を確立していこうと「対外連携・支援部会」を設置し、具体的な方策を検討していますが、これまでに以下のことが確認されています。

- ① 学校・地域が求めている具体的な要望を学校長・公民館長から聞き取り、また提供できることをアンケートで精査を続け、情報を収集・蓄積する必要がある。
- ② 本会は、学校等の要望に見合う個々の会員を速やかに派遣するコーディネーターとしての役割を担う。
- ③ そのために即応可能、そして持続可能な体制・組織を具体的に構築しなければならない。
- ④ 学校等の派遣要請を待つだけでなく、会から供給可能な情報や企画を提供することも重要である。(岡野記)

大宮班から「美術展」開催のご案内

「大宮退職校長会 第23回美術展」
令和5年1月30日(月)～2月5日(日)
9:30～16:30(初日12時開場 最終日15:00終了)
さいたま市立大宮図書館1階展示ホール(新大宮区役所内)

岩槻班退職校長会今後の予定(12月まで)

- 11月・グラウンドゴルフの集い(1日)
 - ・R5・6年度役員推薦締め切り(10日)
- 12月・第2回企画研修会(4,11日)
 - ・会報No25原稿募集(1日)
 - ・年末懇親会(中止)
 - ・岩鷹ゴルフの会(15日)



季節だより



クズ(葛) 秋の七草の中で、昨今の都市部でも見かけられるのが、マメ科のつる植物・クズ(葛)です。上向きの花穂に紅紫色の大きな蝶形花が下から順に咲き上がり、甘い芳香を発しています。

クズの生育量はとても旺盛で、つるは日に30cmも伸び、全体は10mを超えるほどで、光と空間を独占し立ち木や低木を弱らせ枯死させます。その原動力は直径30cm長さ1mをはるかに超える巨大な塊根に蓄えられた澱粉と、三小葉から成る15cm超の大きく多量の葉の光合成とで得られるエネルギーです。しかも葉は光の強さによって角度を調節でき、光合成の効率を高める仕組みを備えています。

今や都市部のクズ(葛)＝荒れ地＝屑(?)と悪者の顔が連想されがちですが、20世紀前半には緑化や斜面の土留め用として北米に持ち込まれ利用されました。ところが、その繁殖力は人間の制御能力を遥かに超え「世界の侵略的外来種ワースト100」に選定されてしまいました。

しかし、かつて日本では生活に役立つ「有用植物」として利用されていました。その例は 罌葛根、葛粉、花葛花、薬家畜飼料、織絹葛布、罌つる細工材などと多岐にわたっています。